

第1回 仏教とは何か？

「仏教」と聞くと、皆さんは何をイメージするでしょうか。「葬式」や「法事」といった、人の死に関わる行事を思い浮かべる人が多いかもしれません。このように現代の日本では、私達の身近な場面に仏教という宗教が入り込んでいます。世界史の教科書を見ても、仏教はキリスト教・イスラム教と並んで三大宗教の一つとされています。しかし、仏教の起源をたどってみると、「仏教Ⅱ宗教」という側面はそれほど強くはないのです。それは、仏教がいつどこで生まれ、どのように伝えられて、我々日本人に身近な宗教として感じられるようになったのでしょうか？この「仏教への誘い」では、その歴史を分かりやすくひもといていきたいと思います。

仏教は今から約2500年前のインドで誕生しました。キリスト教が紀元後（約2000年前）まもなく、イスラム教が7世紀前半（約1400年前）に誕生したとすると、仏教は三大宗教の中では最も歴史が長いということになります。キリスト教の名前が「キリスト（神）の教え」に由来するように、仏教も「仏（ほとけ）の教え」に由来します。「ほとけ」とは、仏教を開いたガウタマ・シッダールタのことを指します。ガウタマ・シッダールタの生い立ちなどについては、第2回以降で触れたいと思います。ここで、「ほとけ」とガウタマ・シッダールタがどうして同じものなのかという疑問が湧くと思います。実は、ガウタマ・シッダールタには別名が数多くあつて、「ほとけ」もその一つなのです。「ほとけ」の由

来にはいくつかありますが、その中に「ブツダ (Buddha Ⅱ 仏陀)」の音に漢字をあてたという説があります。「ブツダ」とはガウタマ・シッダールタが悟りを得た後に名づけられた尊称であり、「目覚めた人」、すなわち「この世を貫く真理を理解した人」という意味です。英語で仏教を表す、Buddhism もこの「ブツダ (Buddha)」から派生しており、「ブツダの教え」を意味しています。その他に、「シヤカ (釈迦)」という呼び名もあります。この呼び名は、ガウタマ・シッダールタがシヤカ族の出身であることに由来しています。次に「ほとけの教え」を簡単に説明しましょう。仏教では、この世は苦しみに満ちており、現実には汚れや苦悩に満ちていると見なします。この見方は、一見して非常にネガティブに

聞こえるかもしれませんが、日常を振り返ってみると、「好きな人に振り返ってもらえない」「嫌いな食べ物が入っている」といった不満を毎日のように私たちは感じていることに気付くはず。仏教では、このような現実を「苦しみ」ととらえ、この「苦しみ」から抜け出し、穏やかな心になることを目指していきます。「苦しみ」から抜け出す方法について、仏教は「正しい理解を得ること」だと説きます。つまり、最初に苦しみにあえぐ現状をありのままに「理解」してから、次に自分が苦しんでいる原因についてはっきりと「理解」し、最後にこの苦しみを鎮めるための正しい方法を「理解」して穏やかな心を手に入れます。この一連の流れを見ると、病気の治療法によく似ていると思いませんか？

「苦しみ」という語を「病氣」に置き換えてみると、それがはつきりすると思います。自分が病氣であることを知り、その原因を突き止めた上で、医者から薬を処方してもらい、医者の指示通りに薬を服用すれば病氣は回復します。このように、仏教は「正しい知」というものを非常に重んじており、「知恵の宗教」と呼ばれる由縁はここにあるといえます。

東京大学仏教青年会
「文・近藤隼人
平成20年4月」



私も「さんわ」で建てました

日出町 店

日出町大神
堀様
前の先祖代々の墓



解体整地後の墓地



私の生まれた地域はそもそも別府でした。しかし、祖父の時代に大神に移住してお墓も建てていました。子どもは姉と二人だけですが、二人とも学生時代を最後に都会へ出ていきました。両親も数年前に他界し、都会に出た私たちにお墓の守は無理なところがあります。それで、地元のお寺さんに相談をすることにしました。早速、「さんわ」さんを紹介いただきました。墓石の解体前のお経の手配、お骨上げ、お骨の清掃お骨の郵送の手配、私は一度も帰ることなくすべてお任せしました。心苦しい面もありましたが、仕事とはいえ快く応対していただき大変助かりました。

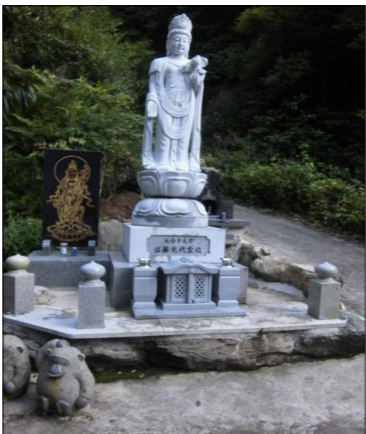
これで長年苦にしていたことが解消でき、とても気持ち軽くなりました。故郷へ帰ることがあれば、「さんわ」さんにお会いしたいと思っています。ありがとうございます。

森町 店

行者山観音堂

唯一、一人で佐賀関志生木の原野を切り開き、お滝場、十三仏、涅槃像、六角修行道場など整備されたその霊場の中に、また、新しい観音菩薩像（下の写真、高さ2m強）が安置されました。それは先日お亡くなりになった方は、先日お亡くなりになった方が、永く行者山観音堂にお参りし、何事も観音様にお願ひし、助けて頂いていました。この方は子供さんがいませんでした。それで、のちのち、供養（お念仏をたむける）がで

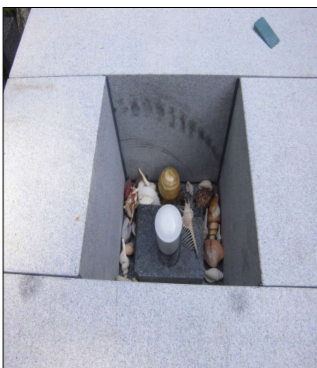
きなくなるであろう。と藤澤先生がお考えになり、行者山観音堂のすぐ傍に建立なされました。お骨は分骨し、一番下の台座の真ん中を削り（左の写真、白い小さな壺）好きだったきれいな貝殻と一緒に納めました。こうすれば、いつもお参りに来ていた行者山観音堂の傍であり、先生もいつもお



参りが出来、また、行者山にお参りに来られた方達にも手を合わせて頂く事ができます。

観音菩薩像（全長2・1m）

観音菩薩像の一番下の台の中央を削り穴を開けました。白く見えるのが分骨の壺。周りには綺麗な貝ガラ



歳をとると良いこともある
今年73歳になりました。

今まで、当たり前だと思っていたことが、実は当たり前ではなかった。この歳になりやつとそのことに少しだけ気付かされるようになりました。空気を3分吸えないだけで死にます。周りの知人、友人もかなりの人が亡くなっています。病院に入院している人も居ます。今、日々仕事をし、好きな仏教の話も聞けます。私自身、このために何の努力もしていません。ただ、ただ頂くばかりです。1円のお金も払っていません。ほとんど、ありがとうございます。感謝の言葉も出したことがありません。田畑先生は「ものは単独であることはない、そのものの背後を見なさい」と教えてくれます。考えることも出来ないほどの因や縁によって、ある。少しは感謝の念が湧くようになり、その念が少し深くなったように感じます。

森町 渡辺 喜八郎